

しました。

このことを知った質屋しちやの主人は、岩子のなさけ深い心に感激して、自分でも米一俵を岩子の家に持つてきて、ご飯たきの活動を助けたのです。これを聞いた町の人々からも米の寄付きふがあり、多くの困っている人々にご飯を分け与えることができたので、人々から感謝されました。

また、水あめの製法せいほうを工夫くふうして、そのしぼりかすからお菓子や焼きもちをつくり、貧しい人たちにあたえ、ひもじさから救すくうための食糧しょくりょうとしました。

しかし、このように社会のため、貧しい人々のために働いている岩子の生活も楽ではありませんでした。

長男の仕送りのお金と、孫が薬剤師やくざいしとして受ける給料きゅうりょうと、三女の娘のはた織りや裁縫さいほうの工賃こうちんなどを合わせてもわずかな収入でした。その少ない生活費をけずって、貧しさに困っている人々を救うために使っていました。